

歯愛メディカル

再生医療で提携

「捨てられる歯」活用

歯科医院向けの通信販売を手掛ける歯愛メディカル（白山市）は、医薬系ベンチャーのセルテックノロジー（東京）と再生医療分野で業務提携した。乳歯や親知らずから採取した歯髄細胞をバンクとして保管するセルテックノロジーが、医療機関向け通販で国内トップシェアの歯愛メディカルのネットワークを生かす。両社は年間1千万本とされる「捨てられる歯」の再生医療への有効活用を目指す。

東京のベンチャーと

セルテックノロジーは現在、国内の歯科医院約1700カ所に歯髄細胞バンク事業を提案している。ただ、カバー率は2%にとどまっており、約6万の取引先を持つ歯愛メディカルのネットワークを活用し、シェアを高めたい考えである。

歯愛メディカルは取引先に定期配布している情報誌やダイレクトメールなどを通じて、全国の歯科医に歯髄細胞バンクについて紹介し、事業を後押しする。仲介手数料をセルテックノロジーから受け取る。

歯髄細胞バンク事業は、抜歯され、本来は医療廃棄物として処理される歯の活用を見込む。主に乳歯や20歳以下の親知らずの歯を対象に、歯科医院の患者の同意の下で登録する。専用施設で培養して歯髄組織を増やし、液体窒素タンクで冷凍保管する。

提供は、医療研究・救命目的の寄付と、家族や子ども将来の再生医療に使用するため有償で預ける二つの方法がある。預ける場合は初回から10年間の保管料

が30万円、更新後の10年間で12万円が必要となる。

歯愛メディカルは7月、取引先の歯科医院を対象に東京と大阪でセミナーを開き、歯髄細胞バンクについて説明する。

再生医療分野は急速に研究が進んでおり、国は20

20年に国内で950億円、世界で1兆円の市場規模を見込んでいる。歯愛メディカルの担当者は「将来必要となる事業であり、社会貢献の思いを込めてサポートしたい」と話した。



歯髄細胞 歯は硬いエナメル質で覆われているため、遺伝子に傷がつけにくい。良質な幹細胞を得ることができる。骨髄などからの採取に比べ、身体的な負担が軽い。幹細胞は分裂して同じ細胞を作る能力を持っており、脊髄損傷や脳梗塞などの神経疾患や虫歯、歯周病の治療への活用が見込まれている。